



2022年2月10日

各位

会社名 ラオックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 飯田 健作
(コード番号 8202 東証第2部)
問合せ先 コーポレート統括本部副本部長 佐藤 学
(TEL 03 - 5405 - 8859)

**特別損失及び法人税等調整額(益)並びに貸倒引当金繰入額(連結)、
関係会社貸倒引当金繰入額(単体)の計上、
2021年12月期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、2021年12月期第4四半期連結会計期間(2021年10月1日～2021年12月31日)において、下記のとおり、特別損失及び法人税等調整額(益)並びに貸倒引当金繰入額を計上いたしましたので、お知らせいたします。

また、2021年8月13日に公表しました2021年12月期(2021年1月1日～2021年12月31日)の連結業績予想と実績値の差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失(契約損失引当金及び転貸損失引当金)の内容(連結・単体)

当社は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う不動産市況の低迷を受け、アセット事業において当社グループが転貸人となる転貸物件の転貸契約履行に伴い将来発生する可能性のある損失に備えるため、また転貸契約の残存期間に発生する損失に備えるため、契約損失引当金繰入額849百万円及び転貸損失引当金繰入額304百万円を特別損失に計上いたしました。

2. 法人税等調整額(益)の計上について(連結)

2021年12月期第4四半期(連結)において、一部連結子会社の時価評価見直しに伴う繰延税金負債の取崩しにより、法人税等調整額(益)486百万円を計上いたしました。

3. 貸倒引当金繰入額(連結)の内容

当社の連結子会社である上海憚誼智鏈科技有限公司が当社の関連当事者(その他の関係会社)である蘇寧易購集团股份有限公司に対して有する売掛債権の一部について対象先からの入金に遅延が生じており、対象先との回収交渉の進捗に応じた入金実績が確認できる状態ではあるものの、2021年12月末時点の売掛債権総額に対する今後の回収可能性について検討した結果、貸倒引当金繰入額342百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。

なお、上記の貸倒引当金繰入額を含め、海外事業において入金に遅延が生じている売上債権や、国内リテール事業において直近で回収見込みが確定していない債権に対しても今後の回収可能性について検討した結果、貸倒引当金繰入額663百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。

4. 関係会社貸倒引当金繰入額(単体)の内容

当社は、2021年12月期第4四半期(単体)において、当社の連結子会社であるラオックス・リアルエステート株

式会社の直近の財政状態及び経営成績を踏まえて、当該関係会社への債権に対して貸倒引当金繰入額として991百万円を販売費及び一般管理費に計上いたしました。

なお、関係会社債権に対する貸倒引当金繰入額につきましては、連結決算上相殺消去されるため、連結財務諸表に与える影響はございません。

5. 連結業績予想数値の修正(2021年1月1日～2021年12月31日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益
前回発表予想(A)	百万円 74,000	百万円 △1500	百万円 △1,300
実績値(B)	68,149	△2,846	△2,151
増減額(B-A)	△5,850	△1,346	△851
増減率(%)	△7.9%	—	—
(参考)前期連結実績 (2020年12月期)	百万円 82,988	百万円 △3,359	百万円 △3,444

6. 修正の理由

連結売上高については、海外事業において国際物流の遅延などの影響や中国国内のEC事業における競争の激化による売上高の減少に加え、蘇寧易購集团股份有限公司との取引において一部入金の遅延等による取引の抑制等の影響から売上高が業績予想数値を下回る結果となりました。

また、生活ファッション事業においては主力商戦の一つである中元・歳暮については底堅い需要の獲得を図ることが出来たものの、返礼ギフトの伸び悩みなどの影響が継続したこと、アセット事業では不動産売却案件の規模の減少と売買成約日が想定より遅れたことなどにより、グループ全体の売上高が計画から乖離することとなりました。

連結営業利益については、上記の売上高の減少による影響のほか、「3. 貸倒引当金繰入額(連結)の内容」に記載した貸倒引当金繰入額の影響により、業績予想数値を下回る結果となりました。

連結経常利益については、連結営業利益の業績予想数値と実績値に対して、為替差益531百万円の計上があったものの、業績予想数値を下回る結果となりました。

以上